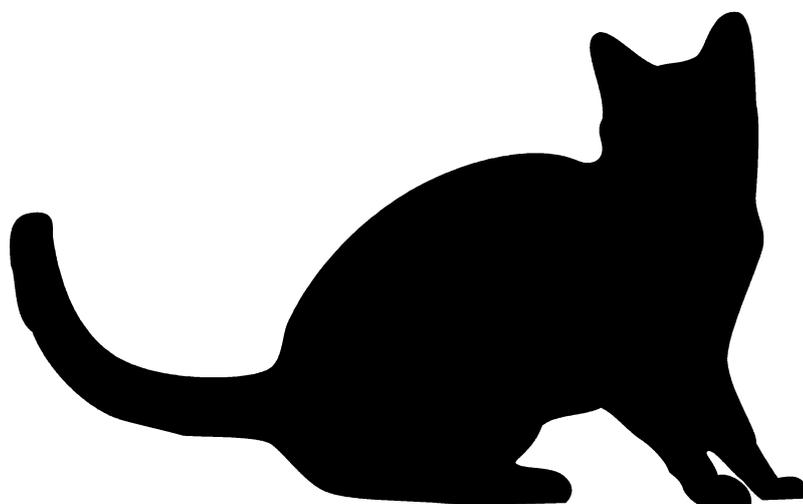


Vim が使えるようになる本 ～ Vimmer への道～

著: T.Takeda



Vim が使えるようになる本

～ Vimmer への道～



【はじめに】

Vim は、テキストエディタです。テキストを入力し、保存し、表示するエディタです。Windows でいうところのメモ帳(Notepad)です。ただし、拡張性や編集能力が Notepad とは比べものにならないほど、強力なエディタです。あらゆる操作をキーボードで完結しており、高速かつ高度に編集するための工夫がなされています。そのため、操作性に特徴があり、初心者には取っつきにくいエディタでもあります。GUI やマウスが普及した今日のユーザーにとっては、なおさらでしょう。しかし、それでも新たに Vim を学び、今なお使われるだけのメリットがあるのです。その神髄は皆さん自身で体感して下さい。Life-changing なエディタライフがあなたを待っています。

Twitter アカウント: [@vimmer_book](https://twitter.com/vimmer_book) にてアップデートの告知や、本書に関するフォローを行っております。

【本書について】

本書は、現役のエンジニアである筆者が社内向けにポストしてきた Vim に関する Tips をまとめたものです。基本的には Tips ごとに内容が完結しており、索引から興味のある Tips を読み進めて頂くことができます。電子書籍化に当たり、加筆、修正、画像入れ、順序替えを行っております(がんばりました)ので、Vim を使うのが全く初めてという方は、先頭から読み進めて頂ければ理解しやすいと思います。前半はほぼ書き下ろしになります。電子書籍の良さを活かして、定期的に加筆・修正などのアップデートを行っていく予定です。(表紙のイラストを募集しております。)

元々は社内の技術力向上を目指し、Vim の基本的な使い方から業務上の実践的な使い方まで様々な Tips を発信してきたものです。私自身、業務時間の大半は Vim の中にいます。コーディングはもとより、会議の議事録、日々の業務記録、TODO、設計やアルゴリズムの覚え書き、操作手順、ログ、プレゼン資料など様々な情報を Vim を使って作成し、残しています。Excel やブラウザの操作も Vim と同じキーバインドです。本書では、そうした「Vim の使い方」を役に立つ「実用」の観点から説明します。新たな発見、理解の一助となれば幸いです。

【メッセージ】

エンジニアにとってのエディタは、料理人にとっての包丁、写真家にとってのカメラです。当たり前を使うものでありながら、こだわりが必要なものです。あなたは包丁にこだわりのある料理人とない料理人、どちらの料理を食べたいですか。カメラに思い入れのある写真家とない写真家、どちらの腕を信頼しますか。あなたはエディタにこだわりのあるエンジニアですか？たいていの場合、優秀なエンジニアはエディタを使いこなしているものです。

【ターゲット】

ターゲットは、Vim を使えるようになりたい方です。
特におすすめしたいのは下記の人々です。

- ▶ プログラミングを始めたばかりの人(最初が肝心)
- ▶ 研究室に配属されたばかりの理工系大学生(時間のある今がそのとき)
- ▶ エンジニア業務に携わる新入社員(本当は入社前に習得しておいて欲しい)
- ▶ これから果てしなくテキストを入力する人(腱鞘炎に気をつけて)

【想定環境】

基本的に Vim 固有の機能を紹介していますが、一部 Cygwin など環境に特化した Tips も含まれることがあります。Windows であれば Cygwin 上の Vim か GVim でよいですし、Mac, Linux, UNIX 系であれば通常のコマンドラインから起動できる Vim で操作できます。

プログラミングはまったく初めてという方は、Windows への Cygwin 環境の導入をお勧めします。Web から `setup.exe` を持ってきて Package をすべてインストールすれば、プログラミングに必要な環境が一式、手に入ります。

【表記について】

g …操作をするために押すキーを示しています。大文字、小文字を明確に区別します。

g と **G** は異なりますので、意識して使い分けて下さい。

g g …連続で二回 **g** を押すことを示します。

Ctrl + g …2つ以上のキーを同時に押すときは、「+」で接続しています。

g -> **Ctrl + g** …操作に順序がある場合は、「->」で接続しています。例は、

g を押した後に、**Ctrl + g** を押すことを示しています。

「\$」から始まる時は、シェルでのコマンド実行を表しています。

```
$ vim
```

「:」から始まる時は、Vim のコマンドモードでのコマンド実行を表しています。

```
:quit
```

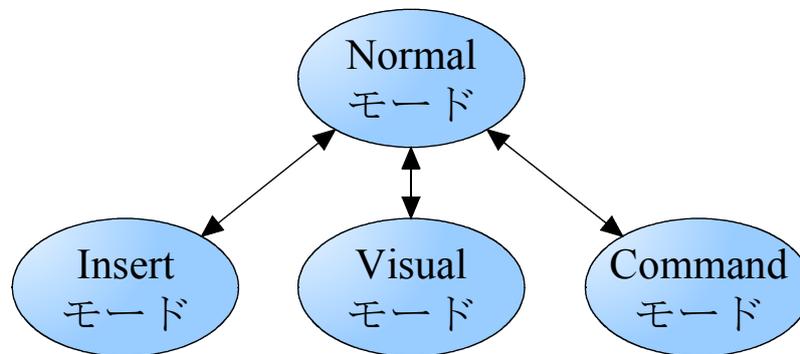
Vim が使えるようになる本	2
【基本操作】 モードを知る	8
【基本操作】 起動と終了	10
【ヒント】 困ったときは	12
【基本操作】 初めての入力と保存	13
【ヒント】 保存して終了	14
【ヒント】 強制的にコマンドを実行	15
【基本操作】 ファイルを開く/ファイルの新規作成	16
【ヒント】 edit コマンドでディレクトリを開く	17
【基本操作】 カーソル移動	18
【基本操作】 元に戻す/やり直す(Undo & Redo)	19
【基本操作】 テキストの選択	20
【基本操作】 コピー&ペースト(切り取り/貼り付け)	22
【基本操作】 もっとカーソル移動	23
【基本操作】 指定の行番号へ移動	24
【Tips】 Vim のチュートリアル	25
【基本操作】 Vim の Help	26
【基本設定】 Vim の設定ファイル	27
【基本設定】 バックアップファイルの自動作成	28
【基本操作】 様々なテキスト入力の開始方法	29
【基本操作】 検索	30
【基本操作】 置換	31
【Tips】 検索時のハイライトを Esc で消す	32
【基本操作】 カーソル下の数値をインクリメント/デクリメント	33
【Tips】 クリップボードからの貼り付け	34
【基本操作】 カーソル上下の文字をカーソル位置に入力	35
【基本操作】 様々な削除操作	36
【基本操作】 コマンドを続けて実行する	38
【基本設定】 ★や■などでカーソル位置がおかしいのを解消する	39
【Tips】 開いているファイルのディレクトリを開く	40
【基本操作】 バッファ管理	42
【基本操作】 ウィンドウ分割	44
【Tips】 2つのウィンドウを同期スクロール	46
【Tips】 2つのバッファを比較	48
【Tips】 svn の diff を Vim で便利に	50
【基本操作】 文字数、単語数、ライン数をカウント	51
【基本操作】 カーソル下の単語を man ページで調べる	52
【基本操作】 大文字小文字を変換する	53
【Tips】 ファイルリストを作成する	54
【ヒント】 保存して終了のショートカットキー	55

【基本操作】 ウィンドウとバッファの関係	56
【基本操作】 ウィンドウを閉じずにバッファだけを閉じる	58
【Tips】 ステータスライン表示のカスタマイズ	60
【Tips】 キー操作を記憶(マクロ操作)	62
【基本操作】 行の結合	64
【基本操作】 対応する括弧へのカーソル移動	65
【基本操作】 対応する括弧、クォート内の文字列をコピー/削除	67
【基本操作】 特定の単語を含む行を削除/残す	68
【Tips】 16進10進変換	69
【Tips】 Vimに計算をさせる	71
【Tips】 Makefileでのタブ文字の空白への置き換えを抑制	72
【Tips】 読み込まれているスクリプトを調べる	73
【基本操作】 セッションを使う	74
【Tips】 カーソル下のファイルを開く	75
【Tips】 キーバインド割当時の注意	76
【Tips】 CygwinのVimから他のエディタに内容を渡す	77
【Tips】 .vimrcを分割する	78
【Tips】 値がすべて0x00のバイナリファイルを作成する	79
【Tips】 列の入れ替え	80
【コラム】 キーボードについて	82
【コラム】 Emacs	83
【F.Y.I.】 FirefoxをVimライクに操作できるアドオン「vimperator」	84
【F.Y.I.】 ExcelをVimライクに操作できるアドイン「vimxls」	86

【基本操作】モードを知る

Vim は「**モード (Mode)**」をもつエディタとされています。初めて Vim を触る人に「とっつきにくい」と言われる所以は「モード」にあります。Vim について、最初に知っておくべきことは起動でも終了でもなく、「モード」です。起動よりも先に「モード」を押さえておくことが、Vim の第一歩を躓かない秘訣です。

Vim には大きく 4 つのモードがあります。以後、それぞれのモードを「ノーマルモード」「挿入モード」「コマンドモード」「ビジュアルモード」と記載します。



モードの概念図

■ Normal モード(ノーマルモード)

Vim 固有の操作を実行するモードです。カーソル移動などの基本操作が行えます。

■ Insert モード(挿入モード)

「編集モード」と言った方がわかりやすいです。普通のエディタのように、テキスト入力が行えます。

■ Command モード(コマンドモード)

:(コロン)から始まるコマンドを実行するモード。保存、終了、置換などのコマンドを実行できます。

■ Visual モード(ビジュアルモード)

「選択モード」。選択範囲に対して操作を行うコマンドを実行できます。選択範囲のコピーなどです。

Vim の起動直後は「ノーマルモード」です。Vim では、ノーマルモードを軸に各モードを行き来して編集を行います。ノーマルモードはその名の通り Vim にとって「通常」のモードですが、このままでは普通のエディタに期待するようなテキストの入力はできません。通常、Notepad などの普通のエディタを起動したとき、テキストを入力できることを期待しています。これが行えるのは Vim では、「挿入モード」です。この差を認識しておかないと「起動したのにテキスト入力ができない！なんてエディタだ！」となってしまいます。まずは、4 つのモードがあることを把握しておきましょう。

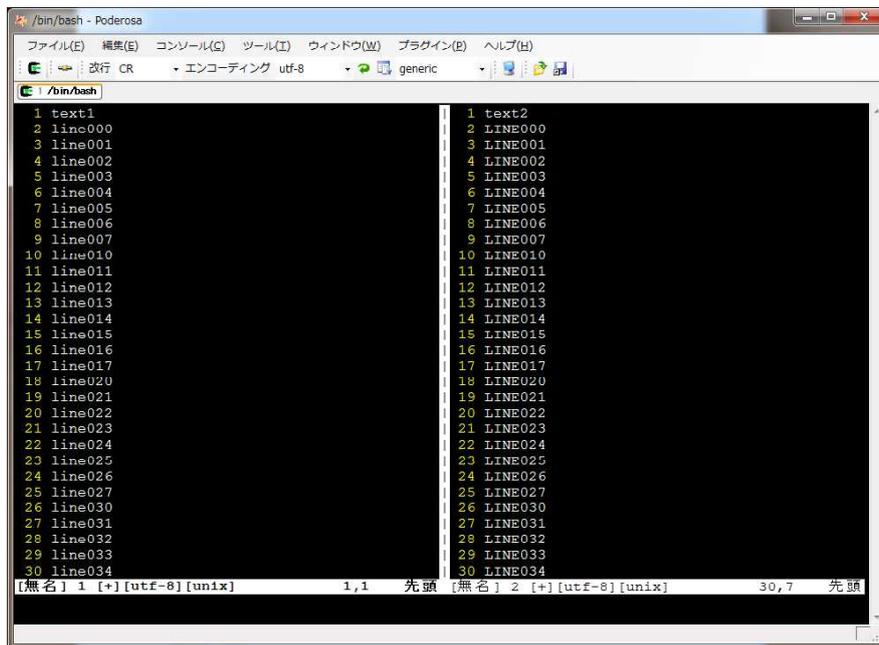
- Vim は通常、「ノーマルモード」にある
- テキスト入力は「挿入モード」でできる
- テキスト選択は、「ビジュアルモード」でできる
- :(コロン)から始まるコマンドは「コマンドモード」で実行できる

【Tips】2つのウィンドウを同期スクロール

Vimner には、左右に開いたウィンドウを同期してスクロールさせたいときがあります。

```
:vsp
```

でウィンドウを左右に分割し、それぞれに同期スクロールしたい二つのバッファを表示させます。



この状態で、それぞれのウィンドウで、

```
:set scrollbind
```

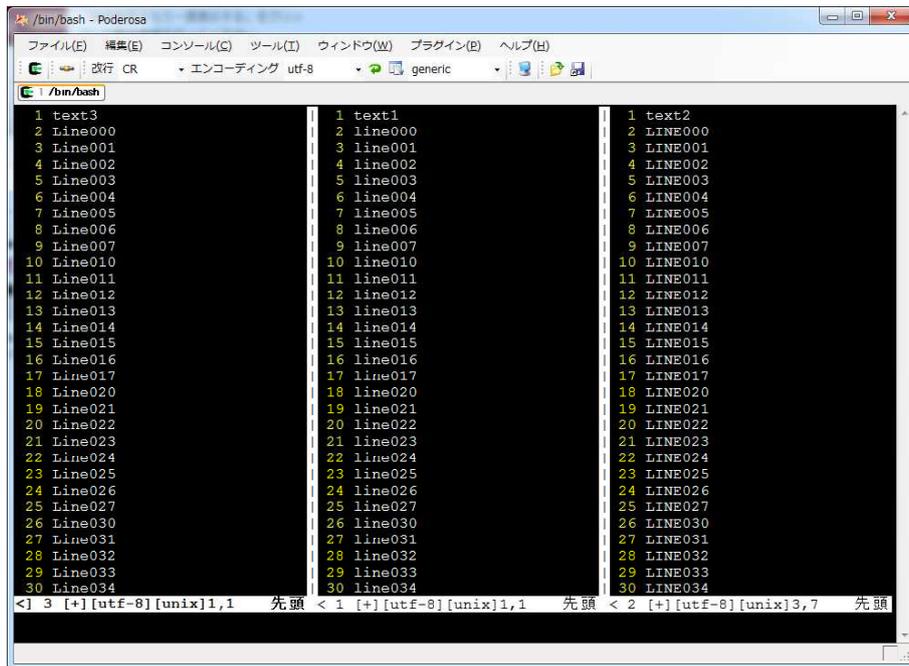
を実行すると同期してスクロールするようになります。

Ctrl + **d** や **j** などで上下に移動させてみましょう。同期してスクロールすることがわかります。

解除するときは、それぞれのウィンドウで、

```
:set noscrollbind
```

を実行します。



ウィンドウが3つ以上に分割されている場合は、scrollbind を set したウィンドウのみが同期してスクロールします。

ウィンドウ間の移動は、下記でできます。

Ctrl + **w** -> **Ctrl** + **w** . . . 順にウィンドウ間を移動

Ctrl + **w** -> **h j k l** . . . **h j k l** の方向に移動

それぞれのウィンドウでコマンドを実行する代わりに、windo コマンドを使う方法もあります。

```
:windo set scrollbind  
:windo set noscrollbind
```

【Tips】 ファイルリストを作成する

あるディレクトリ下のファイル一覧を作成したいことが、しばしばあります。

:r!で外部コマンドを呼び出し、結果を貼り付けられる機能を利用して、

```
:r!ls -l ../hoge
```

のように実行しますと、エディタにファイルの一覧が貼り付けられます。

これで、ファイルやディレクトリのリストをいつでも作成できます。

【Tips】値がすべて 0x00 のバイナリファイルを作成する

Vim では、`digraph` を使用してキー入力できないバイナリデータを入力することができます。

これを利用して、「512bytes の 0x00 データ」などを作成できます。手順としては、ノーマルモード時に下記のように入力します。

`5` `1` `2` `i` -> `Ctrl` + `k` -> `N` `U` -> `Esc`

それぞれの意味は、下記です。

`5` `1` `2` `i` . . . `Esc` までに入力された文字を 512 個挿入

`Ctrl` + `k` . . . `digraph` の入力開始

`N` `U` . . . NULL の略で、0x00 のデータを意味します。

`Esc` . . . 入力が反映されます。

エディタ上には意味のない記号が並びますが、そのまま:w コマンドで保存します。
任意のサイズのダミーファイルがほしいときに便利です。

なお、Vim の設定で

```
set noeol
```

しておきませんと、保存時に自動的に末尾に「LF」が付加されますのでご注意ください。

`digraph` を用いて様々なデータを入力できます。`digraph` の詳細は `help` をご参照下さい。

(続きは、有料版をご利用下さい。)

Vim が使えるようになる本 ～ Vimmer への道～

発行日: 2013 年 3 月 27 日

バージョン: Ver 1.12

最終更新日: 2013 年 12 月 09 日

著者: T.Takeda

(C) Takeda Tomohiro 2013

本書の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・改変することを禁止します。
また、本書を第三者に譲渡することは有償・無償を問わず禁止します。